

ナシ黒星病の秋型病斑から鱗片への感染増加が予測されます！

翌年の発生を抑えるため、秋季防除や落葉処理を徹底しましょう！

[現在の状況]

- ① 10月中旬現在、全県における黒星病(秋型病斑(写真))の発病度及び発生地点率は平年並であるが、県南地域の発病度は平年より高い(表1)。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多いと予想され、感染を助長する条件である。

表1 ナシ黒星病(秋型病斑)の発病度と発生地点率

地域(地点数)	発病度 [※]			発生地点率(%)		
	H29年	H26年 (多発年)	平年	H29年	H26年 (多発年)	平年
全県(20)	1.0	2.0	1.1	70	89	69
県北・県央(4)	0.4	2.2	1.6	75	67	65
県南(6)	2.6	1.9	1.0	67	83	63
県西(10)	0.4	2.0	0.9	70	100	75

※発病度：圃場当たり300葉について発病の有無を程度別に調査し、葉裏面の病斑面積率から算出した値。最小値は0で最大値は100となる。

[防除対策]

- ① 黒星病の秋型病斑上に形成された分生子が、10～11月の降雨により枝を流下し鱗片に感染すると、翌年の芽基部病斑となる。そのため、表2及び平成29年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考にして、収穫終了後から落葉前までに2回程度の秋季防除を行う。特に、本年黒星病が多発生した園では3回以上防除を行う。
- ② 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に、徒長枝の先端までかかるよう丁寧に散布する。圃場の周縁部等、葉液のかかりにくい部分には、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 発病した葉は翌年の一次伝染源となるため、落葉は集めて土中深く埋めるかロータリー耕によりすき込む等、落葉処理を徹底する。



写真 葉裏に発生したナシ黒星病の秋型病斑(葉裏の薄い黒色の病斑)

表2 ナシ黒星病に登録のある主な薬剤（平成29年10月11日現在）

薬剤名	希釈倍数	本剤の使用回数	有効成分	有効成分の総使用回数	FRACコード ¹⁾
オキシラン水和剤	500～600倍	9回	キャプタン	9回	M4
			有機銅	12回 ²⁾	M1
チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	500倍	5回	チウラム	5回 ³⁾	M3
デランフロアブル	1000倍	4回	ジチアノン	5回	M9

1) 殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により，殺菌剤の有効成分を作用機構により分類し，コード化したもの。

2) 12回以内（但し，塗布は3回以内，散布は9回以内）

3) 5回以内（但し，休眠期は1回以内）

（注意事項）

- ・農薬を使用する際は，ラベルに記載されている使用方法，注意事項を必ず確認のうえ使用する。
- ・ナシの場合，農薬の使用回数は本年の収穫終了後から翌年の収穫前までをカウントするため，注意する。